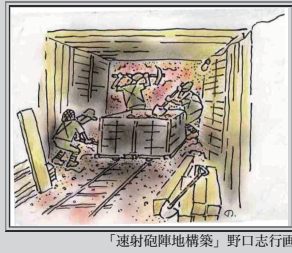


本土決戦！その準備

—郷土の戦争遺跡 沖縄の戦い—

「平和を求めて」図書館資料展は、戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝える戦争資料や関連図書を紹介する企画展です。22回目となる今年のテーマは、「本土決戦！その準備 —郷土の戦争遺跡 沖縄の戦い—」と題して、これまであまり取り上げられていない戦争遺跡に目を向け、太平洋戦争末期に本土決戦へと追い込まれていく郷土の様子に迫りました。期間中、3,484人もの方々にご覧いただきました。

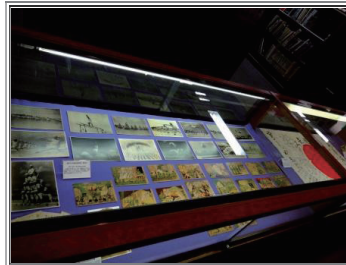
【開催期間】 平成25年7月27日(土)～8月25日(日)
【会場】 中央図書館 2階 展示コーナー



郷土を防衛する旧「怒」部隊の小隊長として、湖西市で陣地構築をしていた野口志行さんや、旧伊良湖国民学校の教員をされていた志満津啓司さん、そして沖縄のひめゆり部隊の生存者の方の証言などをパネルで紹介しました。

また、陣地の構築で実際に使用された円匙（スコップ）や、十字鋸（つるはし）などの貴重な資料も展示しました。

来場者は、どの方も展示パネルをじっくり読んだり、本を手にとったりして、熱心な様子でした。今年は特に若い方に多くご覧いただきました。



◆アンケートより

来場者の記述アンケートでは、「戦争遺跡が身近にあることを知って、驚いた」「あらためて戦争のこわさや平和の大切さがわかった」「いい勉強になった。これからも展示を続けてほしい」など、テーマや展示に対して前向きな感想が、多数寄せられました。今後も、市民の皆さんに関心をもっていただけるような展示を心がけたいです。

以下、ご回答いただいたアンケートから、一部を紹介します（抜粋）。

・表浜海岸近くに住んでいます。身近な所で陣地の構築が進められていたと知り、驚きました。家に帰ってから、父母に話を聞いてみようと思います。ありがとうございました。（55歳 女性 市内）

・終戦時は小6でしたが、豊川工廠、豊橋空襲は、今でもはっきり記憶しています。今回の展示を見て、戦争のおそろしさを再確認しました。渥美半島や二川の陣地構築、まさに当時の政権、軍部のおろかな政策が、今再び訪れないように願うばかりです。当時のマスコミの記事がもっとほしかったように思えます。（79歳 男性 市内）

・本を借りに来て偶然展示があったので見ました。原爆投下の8月6日、9日が近いことを展示を見るまで忘れていました。戦争についての意識が薄くなっている中、このような展示をしていただくことで、戦争はやっぱりいやだ、繰り返さないようにしたいと思うことができます。（24歳 女性 市内）

<記念行事>

戦争体験を語る —本土決戦準備と郷土の戦争遺跡—

と き 平成25年7月27日(土) 午後1時30分～3時30分
と ころ 中央図書館 3階 集会室

記念行事は大勢の方にご参加いただきました。